

# 2018年度事業報告

(2018年4月1日から2019年3月31日まで)

2018年度は当団体が「一般社団法人日本身体障害者アーチェリー連盟」として法人化してから二回目の年度であった。2017年度と本年度は、「競技力強化のための今後の支援方針(鈴木プラン)——2020年以降を見通した強力で持続可能な支援体制の構築——」(2016年10月・スポーツ庁)においては「活躍基盤確立期」であり、2019年度からの「ラストスパート期」に向けての重要な年であった。当連盟は、2020年東京パラリンピックにおいて金メダル含む合計3個のメダル獲得を目標に掲げ活動をしている。国際大会で常にメダル争いできる環境作りを最優先し、組織の基盤強化およびスタッフ・選手が一丸となって、目標達成に取り組んできた。2018年度も各方面より多大なるご支援・ご後援やあたたかいご声援をいただき、積極的な活動を行うことができた。

## 1、組織基盤強化事業

### (1) JPC関連会議参加(加盟団体選手強化体制整備事業)

JPC関連会議の参加により、情報の共有や各団体との交流等を行うことができた。

- ・2018年4月21日(土)「平成30年度第1回JPC加盟競技団体会議」味の素ナショナルトレーニングセンター スタッフ4名参加
- ・2018年8月18日(土)「インドネシアアジアパラ競技会ヒアリング(JPC会議)」JPSSA会議室 スタッフ3名参加
- ・2019年3月4日(月)「平成30年度2回JPC加盟団体会議」ベルサール東京日本橋 スタッフ1名参加
- ・2019年2月6日(水)「平成30年度協働コンサルテーション・JPC強化ヒアリング」JISS研修室 スタッフ3名参加

### (2) 事務局員1名の採用(日本財団パラリンピックサポートセンター助成事業)

競技団体としての基盤整備事業の一環として、日本財団パラリンピックサポートセンターの助成を最大限活用させていただき、2018年4月から事務局員1名を採用することができた。経理処理および日常の案件等の対応人員が増えることにより、事務局の運営が改善された。

### (3) スポンサー獲得事業

経営基盤を強化するためのスポンサー獲得事業に関しては、2017年度の2社を踏まえて目標を3社獲得に設定した。

主な広報活動に関しては「8、広報」の項で詳述するが、日本財団パラリンピックサポートセンターの助成により作成したバックボードやパンフレット等も功を奏し、結果として今年度は新規スポンサー1件、継続スポンサー計3件のご支援を頂戴することができた。

また、所沢5ロータリークラブ様より寄付金も頂戴した。

#### (4) 会員数

2018年度会員数：225名

詳細は「8、広報活動」にて述べるが、会報や公式HP・facebook等による情報の共有を積極的に行った。

## 2、強化（競技力向上）事業

強化戦略をもとに国際大会で常にメダル争いできる環境作りを目指し、選手強化及びスキルアップを掲げた。

強化計画の立案・内容については、選手・強化スタッフ及びコーチ・トレーナー・連盟スタッフが情報を共有し、連携のうえ連盟としての一貫した強化体制で臨んだ。

### (1) 強化委員会・強化スタッフ

会議のみならず日常的なコミュニケーションにおいても連盟スタッフと強化スタッフ及びコーチ・トレーナーと選手との連携を重視した上で、強化戦略をもとに強化計画の立案を行い、選手の情報共有・個々に合ったトレーニングメニューを作成。

#### ① 強化会議の開催（加盟団体選手強化体制整備事業）

- ・第1回 2018年11月10日（土）拡大強化会議 名古屋駅オフィスパーク名駅プレミアム会議室 スタッフ8名 会議の内容 各種規程の承認・2019年度強化選手選考・海外大会の派遣
- ・第2回 2019年3月23日（土）平成30年度臨時強化会議 名古屋駅オフィスパーク名駅プレミアム会議室 スタッフ6名 会議の内容 2019年強化選考基準・国際大会渡航費等について

#### ② 強化スタッフ（JPC強化・助成事業）

今年度も、専任コーチ1名を中心に、女性スタッフ1名・トレーナー2名を加えたメンバーで選手とともにコンディション作り・強化練習等を行った。

### (2) 強化指定選手制度・育成指定選手制度の運用（選手強化活動事業）

2018年度指定強化・育成選手

強化指定選手14名（育成選手なし）

リカーブ男子：上山友裕・長谷川貴大・小野寺公正      リカーブ女子：重定知佳・中西 彩

コンパウンド男子：安島 裕・宮本リオ      コンパウンド女子：永野美穂・平澤奈古

W1男子：仲 喜嗣・大山晃司      W1女子：篠原 彩

スタッフ6人

※なお2018年度強化指定選手により今年度は2つの日本身体障害者アーチェリー連盟記録が更新された。

女子RC 70mR 重定 612点

女子CP 50mR 永野 672点

### (3) 国内強化・選手選考（選手強化活動事業）

#### ①強化合宿

計5回の強化選手の合宿を行った。

また今年度は新たな取り組みとして、東京2020大会の会場（木場）に近く、宿泊等海外遠征に近い状況で実戦的練習も可能な浦安市運動公園においても合宿を行い、浦安市の全面的協力を頂くことができ成功裏に終わらせることができた。（「8. 広報活動」にも記述）

これらの活動も国際大会におけるメダル数・入賞数増につながった。

- ・第1回 2018年5月14日（月）～5月18日（金）浦安市運動公園アーチェリー場 選手10名・スタッフ8名

浦安市役所の企画による地元の方々との交流会があり、競技の説明・記念写真等のイベントも好評だった。

- ・第2回 2018年7月9日（月）～7月13日（金）味の素ナショナルトレーニングセンター 選手13名・スタッフ7名
- ・第3回 2018年9月3日（月）～9月9日（日）アジアパラ直前強化合宿 兼 JPAF杯パラアーチェリートーナメント大会 国立スポーツ科学センター 選手14名・スタッフ6名
- ・第4回 2018年12月3日（月）～12月7日（金）味の素ナショナルトレーニングセンター 選手10名・スタッフ7名
- ・第5回 2019年3月4日（月）～3月8日（金）国立スポーツ科学センター 選手12名・スタッフ6名

#### ②2019年度強化選手国内選考（選手強化活動事業）

2019年2月18日（月）～2月21日（木）JISSアーチェリー練習場

選手10名・スタッフ5名

上記結果と選考委員の協議により、以下を2019年度強化指定選手として発表した。

リカーブ男子：上山友裕・長谷川貴大（選考会）・小野寺公正（選考会）

リカーブ女子：重定知佳・中西 彩（選考会）

コンパウンド男子：宮本リオン・安島 裕・大塚忠胤（選考会）

コンパウンド女子：永野美穂・平澤奈古（選考会）

W1 男子：仲 喜嗣（選考会）・大山晃司（選考会・育成）

W1 女子：岡崎愛子（選考会）

### (3) 国際大会派遣（選手強化活動事業）

6月の「ヨーロッパカップ」ではCPX 宮本リオン・永野美穂組が金メダルを獲得、これはこの大会において日本人初の金メダルであった。10月の「アジア大会」では篠原彩（W1）・RCX（上山・重定）が銀メダル。2019年3月の「パラアーチェリー世界ランキングトーナメント」では仲（W1）銀メダル、ミックス戦においてはRCX（上山・重定）銀メダル・CPX（服部・永野）銅メダルと2つの団体メダルを獲得。各大会で入賞者も続出したことにより、上山選手を中心にチームのムードは入賞からメダルへと意識が変わりつつある。

- ・パラアーチェリーヨーロッパカップサーキット（イタリア/オルビア） 2018年6月1日（金）～6月11日（月）

派遣：選手9名・スタッフ8名

目標：海外での試合経験を重ねる・

結果：CPX（宮本・永野）金メダル、永野 CP 銅メダル、他2名入賞

- ・アジアパラ大会（インドネシア/ジャカルタ） 2018年10月6日（土）～10月13日（土）

派遣：選手12名・スタッフ8名

目標：メダル3個以上獲得、入賞3名

結果：篠原 W1 銀メダル、RCX（上山・重定）銀メダル、CPX（安島・永野）4位、他5名入賞

- ・第4回 F a z z aパラアーチェリー世界ランキングトーナメント大会（ドバイ大会）2018年3月2日（金）～3月7日（水）

派遣：選手13名・スタッフ8名

目標：メダル3個以上獲得、入賞5名

結果：仲 W1 銀メダル・RCX（上山・重定）銀メダル・CPX（服部・永野）銅メダル、他7名入賞

### (4) 基盤整備（スポーツ技術・開発事業）

ハイパフォーマンスセンターの基盤整備（スポーツ技術・開発事業）を本格的に推し進め、強化専任スタッフを中心に連盟スタッフ、サポートスタッフが情報を共有し、選手強化に繋げることができた。

競技力向上のために、競技における動作や姿勢の安定化を競技機材と器具の改良により行う。競技に特化した椅子や車椅子や義肢装具などの用具もアーチェリーのための専用機材の開発により、安定した再現性の高い競技スタイルを確立していく。同時に医科学サポートを活用した新たな取り組みもスタートさせた。

### (5) メディカルチェック（加盟団体選手強化体制整備事業）

「強化指定選手・アジアパラ帯同スタッフメディカルチェック」を行った。

選手14名・スタッフ5名の参加

### 3、発掘・育成・普及事業

#### (1) リカブオープン女子・W1オープン（男女）の選手獲得

以上の選手層の少ないクラスについて積極的にリクルートを行い、全スポ大会・連盟後援大会等の視察に於いて、有望選手の発掘を進めている。

#### (2) 発掘事業 ・ (3) 講演会・メディアへの出演

上記二点について、詳細は「8、広報活動」にて述べる。

### 4、倫理・コンプライアンス事業 連盟役員2名

#### (1) 理事会・評議委員会の開催

社員総会：5月19日（土）日本財団パラリンピックサポートセンターにて開催

理事会：11月10日（土）名古屋市オフィスパーク名駅にて開催

臨時役員会議：12月29日（土）名古屋市オフィスパーク名駅にて開催

理事会：3月23日（土）名古屋市オフィスパーク名駅にて開催

#### (2) 啓蒙活動

・強化合宿等時に代表選手に対し、インテグリティ研修・ケア・コンデションづくり・栄養学など様々な形で啓蒙活動を行った。

#### (3) 相談窓口の開設

・罰則規定等を整備し法令違反を防止する措置を講じた。

窓口：JPSA 相談窓口

規則：懲罰規程

#### (3) 倫理委員会

・倫理委員会の設置を急ぎ、当連盟の役職員を対象に継続的なモニタリングを行う。

#### (4) 危機管理委員会

事業運営における透明性や内部統制機能（ガバナンス）を確保するため、危機管理委員会等の整備を行った。

### 5、国際クラス分け アンチ・ドーピング事業（加盟団体選手強化体制整備事業）

#### (1) 国際クラス分け事業

2017年度より、選手権大会に出場する選手全員が国内クラス分けカードを持つこと・クラス分けに関する情報発信の場にするを目標に、全国大会に合わせ「全国行脚」で国内クラス分けを実施している。

今年度の実施に際しては、クラス分け独自のメルアド作成やクラシファイヤー間の安全な共有サーバーの構築を行った。また、事前にメディカルチェック表や申請書を選手に提出させ、不適格者やクラス分け遂行手順の確認を行う等を行うことにより、よりスムーズな検査を行うことができた。

国際大会時のクラス分けに、国内クラス分けドクター及び担当スタッフを派遣し、国際クラス分け委員の養成に繋げていく。

今後は、運営に必要な機材等をそろえつつ、さまざまな面で協力を頂いている全日本アーチェリー連盟の審判や競技部との勉強会等も行ってゆく予定である。

- ・ 第1回 2018年5月19日（土）関連大会：「のじぎく杯」こうべ市民福祉交流センター クラシファイヤー3名・連盟スタッフ1名 クラス分けを受けた選手：7名
- ・ 第2回 2018年9月8日（土）関連大会：「JPAF杯」埼玉県障害者交流センター クラシファイヤー3名・連盟スタッフ1名 クラス分けを受けた選手：7名
- ・ 第3回 2018年9月29日（土）関連大会：「フェニックス熊本大会」台風24号により中止

#### (2) アンチ・ドーピング事業

アンチ・ドーピングの徹底のために、強化合宿においてJADAによるアンチ・ドーピング研修を行った。

- ・ 2018年12月5日（水）味の素ナショナルトレーニングセンター 参加選手9名・スタッフ6名

なお上記1～5等の事業に対し、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会・独立行政法人日本スポーツ振興センターの競技力向上事業の選手強化・体制整備事業助成金として9,023,000円の助成金を受けた。

## 6、国内大会の開催

本年度は3つの主催大会（うち1大会は台風により中止）・6つの後援大会・その他協力大会を開催した（2大会は台風により中止）

### （1）主催：2大会

- ・ J P A F 杯トーナメント大会 2018年9月9日（日）  
埼玉県障害者交流センター 出場選手 38名
- ・ 文部科学大臣杯争奪フェニックス熊本大会 2018年9月30日（日）  
熊本県杉並木公園 台風24号により中止

### （2）後援大会・協力大会

以下の事業につき、スタッフ派遣や運営支援などを行った。

- ・ 第32回七沢杯アーチェリー競技大会兼第39回関東甲信越アーチェリー競技大会  
2018年11月3・4日（土・日）神奈川県・神奈川県総合リハビリテーションセンターアーチェリー場 出場選手74名
- ・ 第23回長野県障害者アーチェリーオープン大会  
2018年6月3日（日）長野県・松本平広域公園陸上競技場 出場選手34名
- ・ 第40回中・四国身体障害者アーチェリー競技大会 2018年9月23日（日）徳島県・障害者支援施設小星園多目的グラウンド 出場選手39名
- ・ 第28回交流アーチェリー大会 2018年7月8日（日）埼玉県障害者交流センター  
出場選手 98名
- ・ のじぎく杯 2018年7月20日（日）  
しあわせの村アーチェリーレンジ 出場選手64名
- ・ 第41回火の国杯争奪九州身体障害者アーチェリー大会・九州身体障害者アーチェリー選手権大会 2018年9月30日（日）  
文部科学大臣杯争奪フェニックス熊本大会との同時開催であり、台風24号により中止
- ・ 2019かもめオープンインドア大会 2019年1月20日（日）  
神奈川県相模原市けやき体育館 出場選手67名

## 7、全日本アーチェリー連盟主催の全国大会における活躍

- ・ 「第51回全日本社会人ターゲット選手権大会」2018年6月23日（土）・24日（日）  
新青森県総合運動公園アーチェリー場

当連盟より6人の選手が出場、CP女子において永野が準優勝、他2名の入賞者を出すことができた。(CP男子宮本4位・安島8位)

- ・「第23回全日本室内選手権大会」2月16日(土)・17日(日)

山口県岩国市 当連盟の永野がCP女子にて準優勝。

## 8、 広報活動

ホームページ、ポスター、小冊子等のマスメディアを最大限活用した広報活動を行い、パラアーチェリーの普及やスポンサー獲得等の事業基盤整備推進を目指し、それに関する選手の活動サポートも行った。

同時に選手発掘に繋がるような各種体験会にも積極的に参加した。

- (1) リーフレット・連盟ステッカーの作成 (日本財団パラリンピックサポートセンター助成事業)

2019年3月、パンフレット「PARA ARCHERY」1000部・連盟ステッカー1000部を作成。大会やイベント等にて積極的に配布した。

- (2) バックボードの作成 (日本財団パラリンピックサポートセンター助成事業)

パラアーチェリーの魅力を伝えるため・さらなるスポンサー企業獲得に繋げていくために、大会時のインタビューや記者発表等メディア対応時、マスコミによる露出効果を狙い、ご協力いただいているスポンサー企業のロゴが入ったバックボードを2018年8月に作成した。

- (3) ホームページ・公式Facebookの活用

試合要項・結果の迅速な発信・メディア掲載の紹介を積極的に行った。

- (4) 普及活動・体験イベント

- ・千葉県浦安市役所主催 メディア・一般対象の見学会／交流会 2018年5月16日 浦安市運動場アーチェリー場 合宿参加選手およびスタッフ

(詳細は「2、強化(競技力向上)事業(3)国内強化・選手選考(選手強化活動事業)」にも記載)

- ・ENEOS・東京オリンピックパラリンピック組織委員会主催の体験会

2018年8月16日・17日 ららぽーと豊洲 連盟から原口の参加

- ・東京都主催「NO LIMITS CHALLENGE」2018年11月18日(日) 東村山市民スポーツセンター 上山選手参加

- ・東京都オリンピック・パラリンピック準備局「チャレスポ! TOKYO」 2018年12月24日(月・祝) 東京国際フォーラム 弓具・パネル展示



(5) メディア出演

- ・BS日テレ「ストロングポイント」2018年8月23日(日)

<https://www.bs4.jp/strongpoint/archive/onair/147.html>

(重定選手)

- ・三菱電機東京2020オリンピック・パラリンピック公式チャンネル

「鈴木亮平の熱血パラリンピックスポーツチャレンジ!アーチェリー練習編」

<https://youtu.be/ImXo5zXVq0E>

(上山選手)

- ・NHK/BS・東京動画 「武井壮パラスポーツチャレンジ 知れば知るほど面白いパラアーチェリーの世界」

<https://tokyodouga.jp/51TJFYGgZGI.html>

(平澤・大山選手)

(6) 機関紙「なかま」

連盟の一般会計(会員費より)2回発行。2回/年

パソコン環境のない会員及び関係機関に送付。